



N.Inaba

JRA70周年記念

THE KINKO SHO

第60回 金鯱賞 (GII)

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 67,000,000円 27,000,000円 17,000,000円 10,000,000円 6,700,000円
付加賞 938,000円 268,000円 134,000円



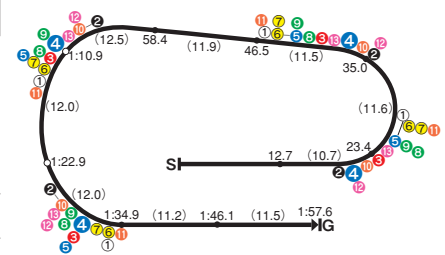
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 57⁺、牝馬2⁺減、2023.3.11以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2⁺増、牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1⁺増、2023.3.10以前のG I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1⁺増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.3.10 中京 晴・良 芝2000m (国際 指定)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	④	プログノース	牡 6	58	川田将雅	1:57.6	11-10-8-5	34.3	480(+9)	2.7②	中内田充正(栗東)	119
2	③	ドゥレツァ	牡 4	59	C.ルメール	5	9-8-6-5	35.0	472(+4)	1.9①	尾関知人(美浦)	112
3	⑥	ヨーホーレイク	牡 6	57	藤岡康太	1	2-3-3-2	35.4	522(+14)	20.9⑥	友道康夫(栗東)	106
4	②	ハヤヤッコ	牡 8	57	幸 英明	1 ½	11-12-11-10	35.0	490(+6)	43.7⑧	国枝 栄(美浦)	103
5	⑩	アラタ	牡 7	57	横山典弘	アタマ	10-11-11-10	35.0	474(-6)	53.1⑨	和田勇介(美浦)	
6	②	ワイドエンペラー	牡 6	57	高杉史朗	クビ	13-12-13-13	34.7	504(+4)	246.4⑩	藤岡健一(栗東)	
7	⑤	ブレイヴロッカー	牡 4	57	丸山元気	¾	5-5-3-5	35.6	466(-2)	84.4⑩	本田 優(栗東)	
8	⑪	エアサーージュ	牡 6	57	池添謙一	1 ¾	2-1-1-1	36.3	530(-2)	15.7⑤	池添 学(栗東)	
9	③	レッドジェネシス	騾 6	57	角田大和	2	8-9-10-10	35.8	498(-6)	362.4⑩	小林真也(栗東)	
10	⑦	ヤマニンサルバム	牡 5	57	三浦皇成	3	2-3-3-4	36.8	512(+10)	10.2③	中村直也(栗東)	
11	⑧	ババジ	騾 5	57	菅原明良	1	5-7-6-8	36.6	508(-4)	163.5⑪	鹿戸雄一(美浦)	
12	⑨	ノッキングポイント	牡 4	57	戸崎圭太	¾	5-5-8-8	36.8	494(+2)	12.6④	木村哲也(美浦)	
13	①	シーズンリッチ	牡 4	57	吉田準人	6	1-2-2-2	38.2	518(+26)	31.6⑦	久保田貴士(美浦)	

単勝③270円(2⁺増) 複勝④120円(2⁺増) ③110円(1⁺増) ⑥320円(6⁺増) 枠連③-④260円(1⁺増)
馬連③-④280円(1⁺増) ワイド③-④160円(1⁺増) ④-⑥630円(8⁺増) ③-⑥790円(9⁺増)
馬単③-④710円(2⁺増) 3連複③-④-⑥1,840円(4⁺増) 3連単④-③-⑥6,100円(14⁺増)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
35.0 - 46.5 - 58.4 46.7 - 34.7

アラカルト

- ・川田将雅騎手はプログノースで制した23年に続く金鯱賞4勝目。JRA重賞は本年5勝目、通算135勝目
- ・中内田充正調教師はプログノースで制した23年に続く金鯱賞3勝目。JRA重賞は本年2勝目、通算39勝目
- ・ディーブインパクト産駒はJRA重賞通算291勝目
- ・金鯱賞連覇はタップダンスシチー(03~05年)、ヤマカツエース(16、17年)に続く3頭目
- ・6歳馬の勝利は21年ギベオンに続く通算7回目
- ・枠連260円、馬連280円、馬単710円は各方式における本競走の最低払戻金額
- ・プログノースは大阪杯(G I)に優先出走できる

プログノーシス Prognosis

牡 鹿毛 2018.5.15生
北海道千歳市 社台ファーム生産
馬主・宥社台レースホース 栗東・中内田充正厩舎
馬名意味・予知(ギリシヤ語)

ヴェルダGB系 F14-c

ディーブインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛 1986	Halo
		Wishing Well
	ウインドインハーヘアIRE 鹿毛 1991	Alzao
		Burghclere
ヴェルダGB Velda 栗毛 2006	Observatory 栗毛 1997	Distant View
		Stellaria
	Viavigoni 栗毛 2001	Mark of Esteem
		Val d'Erica

5代までのインブリード: Hail to Reason S4×M5 Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

光井渉厩舎長(山元トレーニングセンター)

圧勝を決めてくれて爽快な気分でした

香港からの帰国後、約2カ月こちらで調整していました。遠征したなりの疲労感は見られましたが、札幌記念出走後の調整時とほぼ変わりがない状態で、以前よりもレース後のダメージからの回復が早くなっていることが感じられました。好メンバーの1戦でしたが、圧勝を決めてくれて爽快な気分でした。次戦も香港遠征が決まりました。好結果を期待しています。

K. Yamamoto



願のGI制覇に挑む。

昨年、本レースで重賞初制覇を果たした本馬はクイーンエリザベスII世Cの2着を挟み、札幌記念を完勝、秋の天皇賞でも3着に食い込んだ。再度の香港遠征(香港C5着)からの帰国初戦となったこの日は、川田騎手も完調手前と認める状態で迎えたが、2歳年下の菊花賞馬をアツサリ一蹴してGII3勝目をマーク。今後は昨春と同様、クイーンエリザベスII世Cへ進み、念願のGI制覇に挑む。

父ディーブインパクト

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央、仏14戦12勝(ジャパンC^{G1}、日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、宝塚記念^{G1})、年度代表馬2回、07年から供用、19年死亡。12~22年日本リーディングサイヤー。10~14、16~21年日本2歳リーディングサイヤー

〔代表産駒〕コントレイル、ジェンティルドンナ、グランアレグリア、シャフリヤール、ロジャーバロース、ウグネリアン、マカヒキ、キズナ、ディーブプリランテ、サトノダイヤモンド、ミッキークイーン、ディーマジェスティ、アルアイン、フィエールマン、ワールドプレミア、アスクビクターモア、他に^{G1}勝ち馬多数

母ヴェルダGB

伊11戦2勝。14年輸入、22年死亡

イスパー Ysper(10 牝父Orpen)英、仏12戦1勝

ヴォルダ Vorda(11 牝父Orpen)英、仏、北米11戦4勝(cheヴァリーパークS・英^{G1}、ロベールパパン賞・仏^{G2}、ラフレシエ賞・仏L、モルニー賞・仏^{G1}2着)、サイガ Saiga(カラヴェル賞・仏L)の母

ヴァンカーン Van Khan(12 牝父Dr Fong)仏1戦1勝

アヴィオール(15 牝父Redoute's Choice) 持込 中央14戦3勝(關川特別)

ルベリエ(16 牝父ディーブインパクト)中央3戦1勝

オプティマス(17 騾父キングカメハメハ)中央5戦0勝、地方41戦4勝

プログノーシス 本馬(18 牝父ディーブインパクト)中央11戦7勝(金鯱賞^{GII}

2回、札幌記念^{GIII}、京橋S、武田尾特別、カシオペアS・L2着、天皇賞(秋)^{G1}3着、毎日杯^{GIII}3着)、香2戦0勝(クイーンエリザベスII世C^{G1}2着) 獲得総賞金449,281,400円

オールドヴァイ(21 牝父オルフヴェール)中央3戦0勝 ④

※13、23(報告なし)、14、19(前年種付せず)、20(不受胎)、22(死産)

祖母ヴィアヴィゴニ Viavigoni

イギリス産 伊0勝

ヴェルダGB(06 前出)

ヴィアミラーノ Viamilano(07 騾父Dr Fong)伊4勝

サンタコスタンザ Santa Costanza(12 牝父Orpen)伊0勝、ダークチョコ

レート Dark Chocolate(マリナレ共和国賞・伊L2着、ドルメーロ賞・伊^{G2}3着)の母

曾祖母ヴァレリカ Val d'Erica

アイルランド産 伊、仏7勝(伊オークス^{G1}、伊1000ギニー^{G1}、ドルメーロ賞・伊^{G2})、ヴェラルディ Verardi(アンブロシアノ賞・伊^{G3})の母

菊花賞馬に5馬身差の圧勝で連覇達成

大阪杯の前哨戦と位置付けられている金鯱賞だが、今年はゴールの先に別の目標を見据える2頭に人気が集まる。

春の天皇賞に向けてここから始動する菊花賞馬ドウレツツア(単勝1・9倍)と、行く手に海外の大舞台を睨む昨年の覇者プログノーシス(2・7倍)が、

3番人気のヤマニンサルバム(10・2倍)以下を圧倒する支持を集めた。二強と目された両馬は、2着を独占。馬連、馬単などでレース史上の最低払戻金額が記録されたものの、ワンサイド

の勝利を飾ったのは2番人気のプログノーシスだった。

最内枠を引いたシーズンリッチが横一列の並びから抜け出し、まずは先手

を主張。しかしスピードに乗ったエア

サージュが向正面の入口でこれをかわし、主導権を握る。ヨーホーレイク、

ヤマニンサルバムを含めた前の4頭が後続を離し、速い流れでレースが進むなか、ドウレツツアは中国を追走。その背後につけたプログノーシスの川田

将雅騎手は、馬群が凝縮してきた3コーナーの手前、相手の内にスペースが開くとすかさずそこへ潜り込んだ。

この判断が明暗の大きな分かれ目に。コーナーワークも利して前との差を詰めた川田騎手は、直線に向くと内に開いた進路を突いてスパート。鋭く加速したプログノーシスが坂の上りで先頭に立ち、たちまちリードを広げる。一

方、進路の確保に手間取ったドウレツツアは馬群の体外へ持ち出し反撃にかかったが、とぎすでに遅し。抜け出してからもしかり伸びたプログノーシスが、2着は確保したドウレツツアに5馬身差をつけて連覇を達成した。

昨年の本レースで重賞初制覇を果たした本馬はクイーンエリザベスII世Cの2着を挟み、札幌記念を完勝、秋の天皇賞でも3着に食い込んだ。再度の香港遠征(香港C5着)からの帰国初戦となったこの日は、川田騎手も完調手前と認める状態で迎えたが、2歳年下の菊花賞馬をアツサリ一蹴してGII3勝目をマーク。今後は昨春と同様、クイーンエリザベスII世Cへ進み、念願のGI制覇に挑む。